おかげさまで70周年
70th Anniversary Since 1946

第81期 報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

SHINKO

新光電気工業株式会社

証券コード6967

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様には、平素よりひとかたならぬご支援を賜り厚く御礼申しあげます。第81期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申しあげます。

代表取締役社長
清 水 満 晴

パソコン、スマートフォン、エレクトロニクス化が進む自動車やIoT（Internet of Things）関連市場、そして環境、エネルギー、ヘルスケア分野など、半導体は、人々のより便利で快適な、安心・安全な暮らしを支え、豊かに彩るエレクトロニクス製品に搭載され、その頭脳としてさらに用途を広げ、今後、半導体産業は中長期的に成長を持続することが見込まれます。

一方で、高集積化・高速化等の技術革新および絶えず変化する市場ニーズに対し、柔軟かつ低コストで対応し得る開発・生産体制を構築することを要するなど、世界規模での競争が、さらに一段と激化することが予想されます。

当社グループは、このような産業にあって、半導体実装を主軸とした要素技術の開発・強化に努め、成長市場における事業展開を重点的に推進するとともに、生産性、信頼性向上に努め、競争力強化に注力することなどにより、強固な企業基盤の確立をはかってまいります。

さらに、当社グループの企業理念・指針「SHINKO Way」の実践を通じ、市場において必要とされる企業であることはもとより、社会において必要とされる企業であり続けるべく事業を展開してまいります。

また、お陰さまをもちまして、当社は本年９月に創立70周年を迎えることとなりました。これもひとえに株主の皆様のご支援の賜と心より感謝申しあげます。今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成28年６月

■ 平成２７年度の事業概況

当期の半導体業界は、自動車市場向けがさらに拡大し、クラウドサービスの浸透などを背景にサーバー向けの需要等が伸長したものの、これまで成長を牽引してきたスマートフォンの成長が鈍化し、パソコン市場向けは低調のまま推移するなど、厳しい環境が継続しました。

このような環境の下、当社グループでは、市場拡大が見込まれる分野において重点的に新製品開発、設備投資を実施するとともに、生産性向上の取り組みを強化し、高付加価値の製品分野への展開を推進した結果、セラミック静電チャックならびにスマートフォン・自動車向けなどのＩＣ組立、リードフレーム等の売上が増加いたしました。フリップチップタイプパッケージは、パソコン向けが減少したものの、サーバー向けが増加したことにより、当期の連結売上高は1,434億53百万円（対前期比0.4％増）となりました。収益面については、高付加価値製品の増加と第３四半期までの円安基調が寄与し、連結ベースの経常利益は101億35百万円（対前期比12.9％増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産の減損損失を計上したことなどにより、34億76百万円（対前期比46.0％減）となりました。

単独決算につきましては、売上高1,349億60百万円（対前期比0.8％増）、経常利益93億19百万円（同20.8％増）、当期純利益29億58百万円（同46.2％減）を計上いたしました。なお、当期の配当につきましては、期末配当金を12円50銭とし、中間配当金の12円50銭とあわせて年間25円とさせていただきました。

■ 今後の見通し

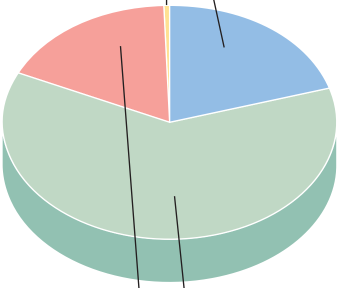
今後の半導体業界は、情報通信関連市場の成長を背景とする需要の増加や、自動車、環境、エネルギー、ヘルスケア向けをはじめとして、半導体用途のさらなる拡大が見込まれる一方、パソコン向けは需要減少が続き、また、スマートフォンも、成長鈍化が顕著となるとともに、低価格品へのシフトや製品の世代交代等に伴い需要が変動するなど、総じて厳しい事業環境が継続するものと想定されます。

このような環境の下、当社グループでは、半導体実装技術・製品群をもとに、サーバー、カーエレクトロニクス、半導体製造装置関連をはじめ、今後、成長が見込まれる市場向けに重点的に経営資源を投下し、一層の拡販に努めてまいります。さらに、急速な市場拡大が見込まれるIoT関連など、高機能半導体へのニーズがさらに高まることが想定される分野において、新商品の事業化をはかるべく、マーケティング機能、開発機能の充実ならびに技術領域の拡充に努め、新たな需要獲得に注力してまいります。また、パソコン向け、スマートフォン向けについては、一層の生産性・信頼性の向上をはかり、次世代製品の開発、市場投入を強力に推進することなどにより、競争力強化、収益確保に努めてまいります。

熾烈な競争が繰り広げられる半導体市場にあって、当社グループは、ものづくり、技術、サービスで常に先行し、市場・環境の変化に即応できる強靭な企業体質の構築をはかり、「限りなき発展」を果たしてまいります。

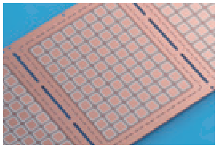
部門別の状況

部門別売上高構成

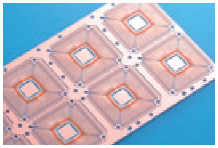


※（　）内の数字は構成比率を表わしております。

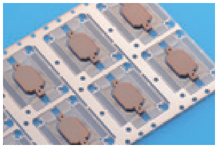
ICリードフレーム部門



QFNタイプ
リードフレーム



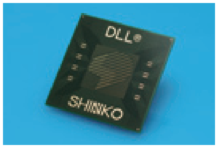
プレスリードフレーム



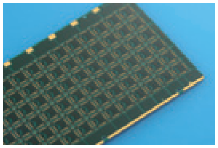
かしめリードフレーム

搭載製品例　スマートフォン、自動車、パソコン、家電・産業用他

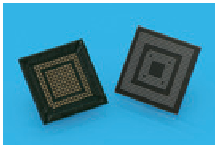
ICパッケージ部門



フリップチップタイプ
パッケージ



プラスチック
BGA基板



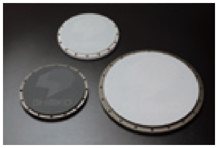
IC組立

搭載製品例　パソコン、サーバー、スマートフォン、民生機器他

気密部品部門

センサー用ガラス端子

光素子用ガラス端子



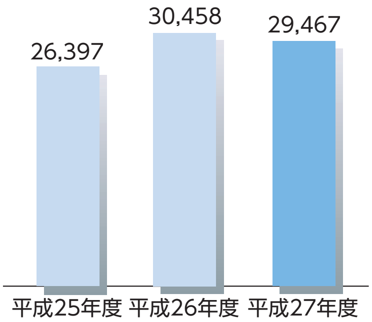
セラミック
静電チャック

搭載製品例　自動車、半導体製造装置、民生機器、通信機器他

売上高　294億67百万円（前期比 3.3%）

エッチングリードフレームは、スマートフォン向けなどに需要が増加したＱＦＮ（クワッド・フラット・ノンリード）タイプの生産体制整備をはかったことなどにより増収となりました。プレスリードフレームは、エレクトロニクス化が進む自動車向けの受注は増加したものの、パソコン、デジタル家電等の市場低迷による在庫調整の影響を受けました。この結果、当部門の売上高は294億67百万円（対前期比3.3%減）となりました。

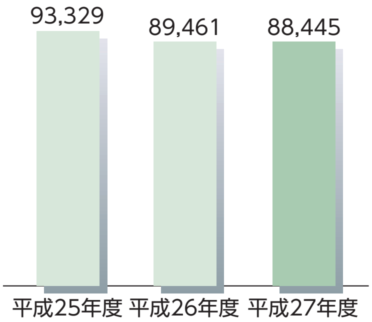
部門別売上高（百万円）



売上高　884億45百万円（前期比 1.1%）

フリップチップタイプパッケージは、サーバー向けが堅調に推移したものの、パソコン市場低迷の影響を受けて減収となりました。プラスチックＢＧＡ（ボール・グリッド・アレイ）基板は、メモリー向け新製品の受注が増加し、アセンブリ事業においてスマートフォンや自動車向けにＩＣ組立の需要が拡大しましたが、ＭＰＵ向けのヒートスプレッダーは売上が減少しました。この結果、当部門の売上高は884億45百万円（対前期比1.1%減）となりました。

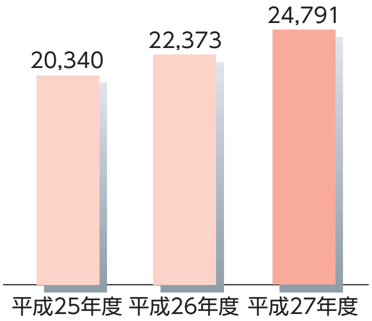
部門別売上高（百万円）



売上高　247億91百万円（前期比 10.8%）

センサー用ガラス端子は、国内自動車市場低迷等の影響を受け、減収となりましたが、光素子用ガラス端子は、光通信向けの受注が拡大し、また、半導体製造装置向けセラミック静電チャックは、需要が伸長し、増産体制の整備を行ったことなどにより増収となりました。この結果、当部門の売上高は247億91百万円（対前期比10.8%増）となりました。

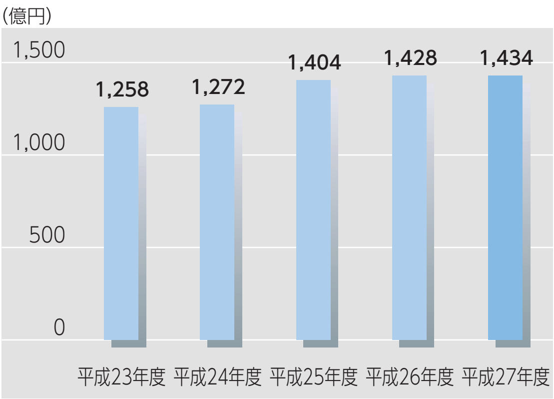
部門別売上高（百万円）



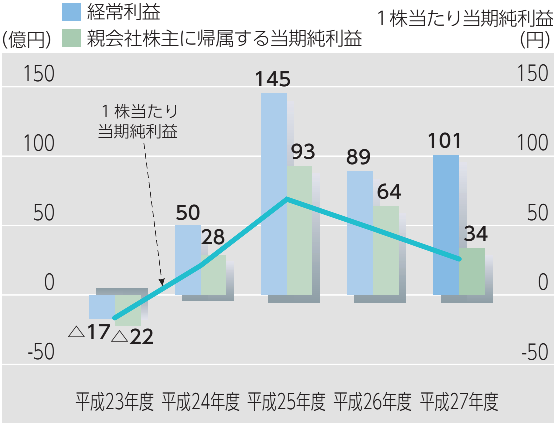
業績の推移

〔連結〕

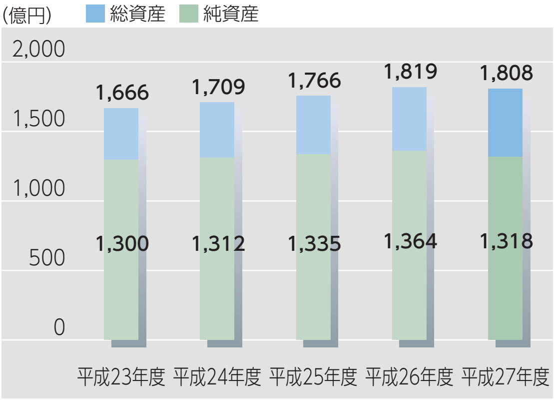
■ 売上高



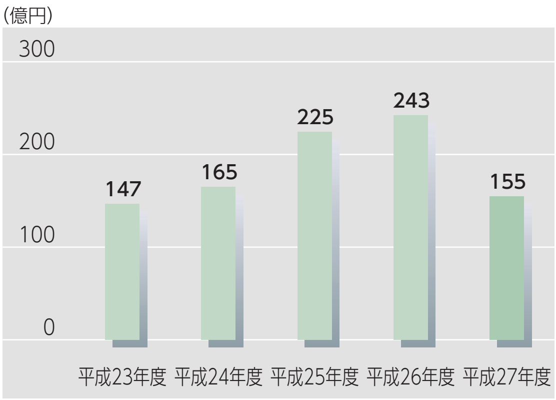
■ 経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益



■ 総資産／純資産

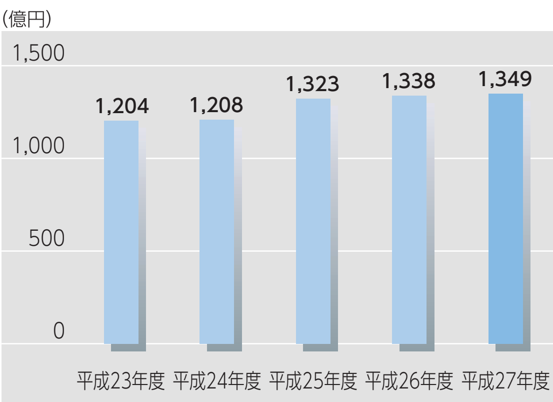


■ 設備投資

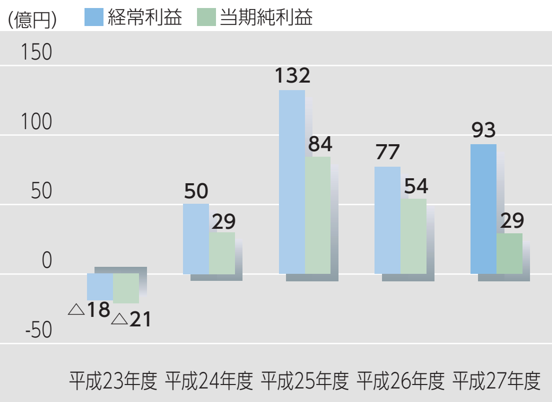


〔単独〕

■ 売上高



■ 経常利益／当期純利益



■ 営業成績および財産の状況の推移

区分 ＼ 年度	平成23年度〔第77期〕	平成24年度〔第78期〕	平成25年度〔第79期〕	平成26年度〔第80期〕	平成27年度〔第81期（当期）〕
〔連結〕					
売上高（百万円）	125,825	127,241	140,412	142,815	143,453
経常利益（百万円）	△ 1,758	5,049	14,501	8,973	10,135
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	△ 2,242	2,874	9,309	6,442	3,476
1株当たり当期純利益	△ 16円60銭	21円28銭	68円91銭	47円69銭	25円74銭
総資産（百万円）	166,686	170,966	176,651	181,903	180,886
純資産（百万円）	130,048	131,206	133,536	136,407	131,834
1株当たり純資産	962円68銭	971円25銭	988円50銭	1,009円75銭	975円90銭
設備投資（百万円）	14,771	16,596	22,508	24,324	15,508
研究開発費（百万円）	4,544	4,231	4,218	3,946	3,643
〔単独〕					
売上高（百万円）	120,438	120,867	132,302	133,898	134,960
経常利益（百万円）	△ 1,895	5,008	13,280	7,717	9,319
当期純利益（百万円）	△ 2,165	2,943	8,435	5,497	2,958

決算概要（連結） Financial Statements(Consolidated)

■ 連結貸借対照表

平成28年3月31日現在

（単位：百万円）

科　目	当　期	前　期
資　産　の　部	**180,886**	**181,903**
流　動　資　産	**104,036**	**99,712**
固　定　資　産	**76,850**	**82,190**
有形固定資産	70,648	77,160
無形固定資産	1,136	993
投資その他の資産	5,065	4,036
資産合計	**180,886**	**181,903**

（単位：百万円）

科　目	当　期	前　期
負　債　の　部	**49,052**	**45,495**
流　動　負　債	**34,771**	**35,879**
固　定　負　債	**14,280**	**9,616**
純　資　産　の　部	**131,834**	**136,407**
株　主　資　本	**144,192**	**144,431**
資　本　金	24,223	24,223
資本剰余金	24,129	24,129
利益剰余金	95,932	96,171
自　己　株　式	△ 92	△ 92
その他の包括利益累計額	**△ 12,358**	**△ 8,023**
負債純資産合計	**180,886**	**181,903**

■ 連結損益計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

（単位：百万円）

科　目	当　期	前　期
売　上　高	**143,453**	**142,815**
売　上　原　価	121,611	125,689
売上総利益	**21,842**	**17,125**
販売費及び一般管理費	12,420	12,543
営　業　利　益	**9,422**	**4,581**
営業外収益	1,095	4,414
営業外費用	382	22
経　常　利　益	**10,135**	**8,973**
特　別　損　失	3,977	558
税金等調整前当期純利益	**6,157**	**8,414**
法人税、住民税及び事業税	2,452	1,800
法人税等調整額	228	171
親会社株主に帰属する当期純利益	**3,476**	**6,442**

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

（単位：百万円）

科　目	当　期	前　期
営業活動によるキャッシュ・フロー	**25,290**	**17,003**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 16,671**	**△ 26,009**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 3,771**	**△ 3,424**
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△ 829**	**1,744**
現金及び現金同等物の増減額	**4,017**	**△ 10,685**
現金及び現金同等物の期首残高	**44,337**	**55,023**
現金及び現金同等物の期末残高	**48,355**	**44,337**

アセンブリ事業部がISO/TS16949の認証を取得

昨年７月、アセンブリ事業部（新井工場：新潟県妙高市、高丘工場：長野県中野市）においてISO/TS16949の認証を取得しました。

ISO/TS16949は、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001をベースに自動車業界固有の厳しい要求事項が付加された、自動車産業向けの業界規格です。認証の取得にあたっては、お客様のご要求事項を満たすとともに、継続的な改善や欠陥予防など、高い水準での品質マネジメントが求められます。

本認証の取得を基盤として、品質と信頼性をより重視する自動車産業のお客様からのニーズにお応えすることにより、ビジネスが拡大するなどの効果が現れています。

当社グループでは、リードフレーム事業部（高丘工場：長野県中野市）およびSHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.（マレーシア）においても、認証を取得しています。

認証証 左 新井工場：JPN-16435/1-TS
右 高丘工場：JPN-16435/2-TS

創立70周年を迎え　～今後も社会の発展への貢献を目指します～

当社は、家庭用電球の再生事業を行っていた「合資会社長野家庭電器再生所」を前身として、昭和21年9月に設立され、今年、創立70周年を迎えます。

戦後まもなく、戦火を避け、長野市に疎開していた工場に勤務するおよそ60名の社員と建物や設備を引き継ぎ創業した当社は、現在９ヶ国37拠点においてグループ社員約5千名により事業を展開しています。

これまで当社グループは、人々のより豊かで快適な生活に寄与することを目指し、ものづくりに取り組んでまいりました。創業時からの企業理念や精神等は「SHINKO Way」として、全グループ社員に受け継がれ、日々の業務における指針となっています。今後も国際社会において信頼される企業として、社会の健全な発展に貢献することを目指してまいります。

左「SHINKO Way」冊子　右「長野家庭電器再生所」看板

会社の概要 Corporate Data

（平成28年３月31日現在）

■商　　　号　**新光電気工業株式会社**

■設立年月日　昭和21年９月12日

■本　　　社　長野県長野市小島田町80番地
電話（026）283-1000〔代表〕

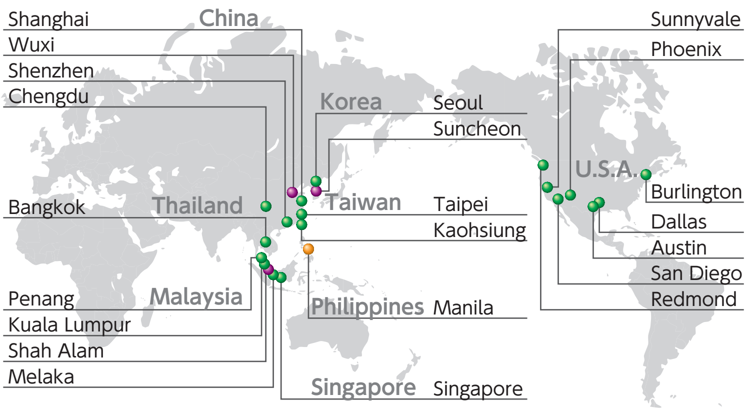
■主な事業内容　リードフレーム、プラスチック・ラミネート・パッケージ、ガラス端子などの製造・販売、ICアセンブリ

■従業員数　4,070名（連結4,880名）

■工　場　等　更北、若穂、高丘、新井、京ヶ瀬、
新光開発センター、栗田総合センター

■営業所等　東京、大阪、仙台、長野、名古屋、大分、福岡、
マニラ

■グローバルネットワーク



●営業拠点　●駐在員事務所　●生産拠点

取締役

（平成28年６月28日現在）

代表取締役会長	豊木則行
代表取締役社長	清水満晴
取締役　専務執行役員	依田稔久
取締役　常務執行役員	小平正司
取締役　上席執行役員	長谷部浩
取締役　常勤監査等委員	小川喜彦
取締役　監査等委員	北澤光二
取締役　監査等委員	佐伯里歌

執行役員

（平成28年６月28日現在）

常務執行役員	浅野義博
常務執行役員	今井邦彦
上席執行役員	荻原俊彦
上席執行役員	清野貴博
上席執行役員	村田明彦
上席執行役員	倉嶋進
上席執行役員	小澤隆史
執行役員	有賀広志
執行役員	小林純一
執行役員	小池和男
執行役員	平林利康
執行役員	田口哲夫
執行役員	南沢克夫
執行役員	田中秀幸
執行役員	大日方政史
執行役員	田中正人
執行役員	永田欣司
執行役員	伊藤明彦
執行役員	松澤秀樹

株式の状況

Shareholders' Data

（平成28年３月31日現在）

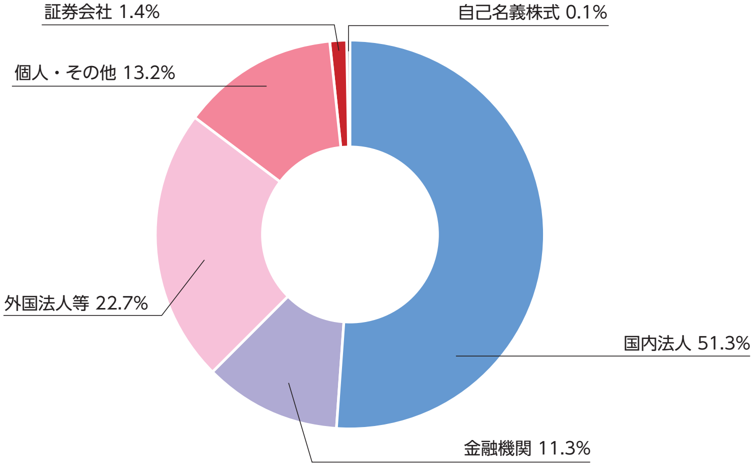
■発行可能株式総数	540,000,000株	■資　本　金	24,223,020,480円
■発行済株式の総数	135,171,942株	■株　主　数	15,432名

■大　株　主

株　主　名	所有株式数（千株）	出資比率（％）
富士通株式会社	67,587	50.00
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,902	2.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,670	1.98
J. P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S. A. 380578	1,989	1.47
JP MORGAN CHASE BANK 380684	1,943	1.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口９）	1,907	1.41
THE BANK OF NEW YORK 133522	1,846	1.37
株式会社八十二銀行	1,836	1.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,806	1.34
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,448	1.07

所有者別株式分布状況

（平成28年3月31日現在）



表紙：野沢温泉村上ノ平高原のブナ林

株式事務のご案内

■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目４番５号
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社

（連　絡　先）
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社　証券代行部
電話　0120-232-711（通話料無料）

■事　業　年　度　４月１日から翌年３月31日まで

■基　準　日

定時株主総会関係　３月31日
配当金受領株主確定日　３月31日および中間配当金の支払いを行うときは９月30日

■公　告　方　法　電子公告
当社は、公告を下記ホームページに掲載しております。
http://www.shinko.co.jp/ir/kk/
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

（ご注意）

1．株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他の各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。

2．特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱ＵＦＪ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の連絡先にお問い合わせください。三菱ＵＦＪ信託銀行全国各支店においてもお取り次ぎいたします。

3．未受領の配当金につきましては、三菱ＵＦＪ信託銀行本支店でお支払いいたします。

SHINKO
新光電気工業株式会社
〒381-2287 長野県長野市小島田町 80 番地
電話(026)283-1000〔代表〕 FAX(026)284-8861
http://www.shinko.co.jp

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK
地球環境に配慮した植物油インキを使用しています